

## 「できた」「わかった」を実感する NIE 活動—焦点化・共有化・視覚化で思考の可視化—

指定校 1 年次 上松町立上松小学校 岡田 祐貴

### (1) 本年度の NIE 活動の概要

本校では、5 年生の児童が 9 月から 7 社の新聞を活用した学習に取り組んだ。まず「新聞スクラップ」に取り組んだ。児童は気になった記事を毎日スクラップし、金曜日には、その中から最も気になった記事を一つ選び、「なぜその記事が気になったのか」を自分の言葉でまとめ、新聞に親しむ活動を行った。10 月には、「その記事の主役は誰だろうか」という学習問題を設定し、7 社の新聞社から 3 社選び、それぞれの 1 面を比べながら、「その記事は、誰（何）が主役として取り上げられているのか」について読み取り、自分の言葉でまとめる活動を行った。11 月には、「同じ内容の記事なのに、なぜ取り上げ方が違うのか」という学習問題を設定し、「新聞社で伝えたいこと」について読み取り、自分の言葉でまとめ、発表する活動を行った。そして 3 月には、これまでの活動を基に、「私たちが創る学校を動かす新しいリーダー像」について全校規模で学習の成果を発表する活動を設定した。

### (2) NIE 活動をはじめ前の児童の様子

本校は、全校児童 140 名、10 学級（全学年単級 6 + 特別支援学級 4）の木曾川沿いの河岸段丘上に立地している学校である。今年度は、NIE 指定校 1 年目として、5 年生が新聞を活用して学習に取り組んだ。これまで本校では、昇降口に「子ども新聞」を設置していたものの、児童が日常的に新聞に触れたり、学習の中で計画的に活用したりする実践は十分とはいえなかった。多くの児童にとって、新聞は身近な教材というよりも、「置いてあるもの」という存在にとどまっていたのが実態である。そのような背景の中で、新聞を教育活動にどのように位置付け、どのような力を育てていくのかを校内で共有することからスタートした。NIE の実践学年については、次年度に最高学年となる 5 年生が適していると考えた。新聞を活用した学習を通して、社会への関心を高め、多面的に考える力や自分の考えを表現する力を育み、リーダーとして活躍する 6 年生へつながる学びへ発展させたいという願いを研究会で共有し、実践を進めることとした。

### (3) NIE 活動のねらい

本年度、本校の研究テーマを『笑顔は光る「できた」「わかった」を実感～「焦点化」「共有化」「視覚化」の授業づくりを通して～』とし、研究を進めてきた。児童が新聞記事で取り上げられている出来事や人物について知り、その記事の「伝えたいこと」を焦点化して読み取り、新聞を比較したり、関連付けたりすることを通して、「来年、学校を動かすリーダーとして、どんなリーダーになりたいのか」を自分の言葉で相手に伝える力を育むことを目指した。

### (4) 公開授業以外の NIE の取り組みの状況

#### ① 新聞コーナーの設置

教室の一角を活用し、「新聞コーナー」を設置した。計 7 社の新聞が一目で見られるように新

聞を長机に並べ、自由に見られるようにした。子どもたちにとって初めて身近に新聞がある生活ということで、最初は新聞に触れる時間が短かったが、スクラップを続けていくうちに新聞に触れる時間が増え、新聞に親しむ姿が多く見られた。



新聞コーナー



新聞の見方

## ② 新聞出前講座「信濃毎日新聞社の方々より」

初めて新聞に触れる児童が多かったことから、信濃毎日新聞社の方々に来校していただき、「新聞の見方・読み方」を中心に学習する出前講座を実施した。出前講座を通して、「見出し」や「本文」などの「新聞の作り」について学んだり、実際に新聞記事を比べたりして新聞に親しむことができた。この出前講座をきっかけに新聞スクラップを実施した。

### (5) 公開授業などの活動内容

- 1 第5学年 特別活動『わたしたちが創る 学校を動かす新しいリーダー像』  
教材名 建設標「10代」(信濃毎日新聞)

#### 2 評価

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・記事の意見を参考に、学校を動かすリーダーとして必要な要素を挙げている。	・自己の学校を動かすリーダー像を伝わりやすい言葉で表現し、最適な表現方法(書く/話す)を選んで他者に分かりやすく伝えている。	・自分の考えを表現することに意欲をもち、仲間との交流を通して多様なリーダー像を認めようとしている。

#### 3 単元計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	①単元名・学習問題を確認し、学習の見通しを持つ。 ②現時点での「学校を動かすリーダー」について考え、グループで伝え合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>【学習問題】</b>  <b>ぼく・わたしが考える「学校を動かすリーダー」とは何か</b> </div>	・「どんな6年生になりたいのか」と問いかけ、これまでの自分の姿と6年生に向けて何が必要なのかを関連付けながら考え、子どもたちの声から学習問題を設定する。 ・単元の目標と最終的な新聞作成までの流れを明確に示し、学習への動機付けを行う。 ・グループ活動では、すべての児童が意見を出しやすい雰囲気を作り、多様な意見があることを活動前に全体で確認する。
2 ・ 3	①新聞記事の中から「学校を動かすリーダー」のヒントになる情報を集める。 <b>【シンキングツール：ウェビングマップ】</b> ②集めた情報をグループ内で共有する。 ③得た情報を基に、現時点での「理想のリ	・信濃毎日新聞の「10代」のよさを共有し、そこにヒントがあることを示唆する。 ・集めた記事の情報(見出し、要点など)をロイロノートなどのツールで視覚的に共有し、思考の可視化を促す。

	<p>ーダー像」について自分の考えをまとめる。</p> <p>④多様な価値観に触れる時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノート「提出箱」を活用し、友だちの考えをじっくり見て、「気になる人」のところに話を聞いたり、自分で考えを深めたりして、新しい考えに出会う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集の際、事実だけでなく、「記事の主役」や「伝えたいこと」（10月・11月の活動の成果）に着目することを確認していく。</li> <li>・ロイロノートの「提出箱」をじっくり見る時間を設定し、「気になる人」のところへ話を聞いたり、考えを深めたりして、多様な価値観に触れる機会を設定する。</li> </ul>
4 本 時	<p>①学習問題の確認と課題設定</p> <p>②自己の「学校を動かすリーダー」の具体化</p> <p>【シンキングツール：ウェビングマップ】</p> <p>③多様な価値観に触れる時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノート「提出箱」を活用し、友だちの考えをじっくり見て、「気になる人」のところに話を聞いたり、自分で考えを深めたりして、新しい考えに出会う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を明確に示し、児童が見通しをもって活動できるようにする。また、複数の表現方法を提示し、自分に合った方法を選択できるようにする。</li> <li>・ウェビングマップを活用し、中心に置いた言葉から連想【根拠（論理的な思考）】を広げていけるよう支援する。</li> <li>・ロイロノートの「提出箱」をじっくり見る時間を設定し、多様な価値観に触れる機会につなげる。</li> </ul>
5	<p>【新聞づくり出前講座】</p> <p>①新聞の基本構造を知る。</p> <p>②記事を作成する。（体験）</p> <p>③実際に見出しとレイアウトをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の「見方・読み方」の学習を活かし、「伝わる表現」について具体的な構成要素（見出し、リード文など）と関連付けられるよう支援する。</li> </ul>
6	<p>①新聞の構成要素（見出し、記事、写真など）を確認する。</p> <p>②新聞の構成やデザインを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を活かし、「伝わる表現」について具体的な構成要素（見出し、本文など）と関連付けながら確認する。</li> <li>・新聞を活用した発表会は、「自分の考えを自信をもって表現し、伝え合う喜びを感じるための場である」ことを全体で確認していく。</li> </ul>
7 ・ 8 ・ 9	<p>①「理想のリーダー像」について新聞記事を作成する。</p> <p>シンマイEGGを使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記事作成にあたっては、「理想のリーダー像を言葉で表現できているか」また、「根拠を明確にしているか」を確認する。</li> <li>・必要に応じてロイロノートの学習カードを活用し、思考の構造化を支援する。</li> </ul>
10 ・ 11 ・ 12	<p>①まとめた新聞記事を学級内で発表する。（ペア活動）</p> <p>②発表に対しての良い面やアドバイスを伝え合う。（講評）</p> <p>③講評してもらったことを生かして、新聞の修正を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表と講評を通して、多様なリーダー像を認めることの大切さを感じてもらえる機会を設定する。</li> <li>・「できた」「わかった」を実感できるよう、単に評価するだけでなく、相手の表現のよい面を具体的に伝え合うことを重視する。</li> </ul>

#### 4 本時案

##### ① 主眼

新聞の構成要素について学び、新聞を比較したり、関連付けたりする学習をしてきた児童が、新聞記事の「10代」から、自身のリーダー像と関連付けて学校を動かすリーダー像について考え、言語化する場面で、理想のリーダー像に必要な具体的な資質を言語化し、多様な価値観に触れる活動を通して、自己の考えを確立することができる。

##### ② 本時の位置（10時間中4時間目）

前時：新聞記事の中から「学校を動かすリーダー」のヒントになる情報を集め、得た情報から現時点での「学校を動かすリーダー像」について自分の考えをまとめた。

次時：新聞における「伝わる文章」とはどのような文章構成なのかを知り、「学校を動かすリーダー像」をどのように文章構成すれば伝わりやすいのかを考える。

##### ③ 指導上の留意点

- ・事前にロイロノートへ学習カードを用意しておく。
- ・前日にタブレット端末を保管庫にいれ、充電しておく。

##### ④ 展開

段階	○学習活動	・予想される児童の反応や発言	指導上の留意点	時間
導入	<b>【学習問題】</b> ぼく・わたしが考える「学校を動かすリーダー」とは何か。			5
	○学習問題の確認と課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の時間で、新聞記事（10代）からヒント（行動）を見つけることができた。</li> <li>・前の時間のヒントから「相手の気持ちを考える」ことや「周りを見て行動する」ことが大切だと考えた。</li> <li>・「みんなの頼りになれる」には何が大切なんだろう。</li> <li>・「全校を引っ張る」ために自分は何を大切にしようかな。</li> <li>・「具体的な行動」をさらにどんな場面で活かせるのかを考えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を明確化し、「自分に合った表現方法を探す」という個別最適化の視点を共有する。</li> <li>・学校を動かすリーダーについて、考えがまとまらない児童については、「どんな6年生になりたいか？」に立ち返って考えるよう促す。</li> </ul>	
	<b>【めあて】</b> 集めた情報を使って、「学校を動かすリーダー」について自分の考えを決定しよう。			
	○今日の学びの目標をスプレッドシートに入力する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップ2で自分が考える「リーダー像」ってなんだろう。</li> <li>・ステップ3で自分が考える「リーダー像」の大切なことってなんだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に各ステップを掲示し、児童に自己選択できるよう環境を整える。</li> </ul>	



## ⑤ 児童の反応

- ・ICT を活用した学習では、自分の考えを可視化し、他者と比較・関連付けながら思考を深めようとする姿が見られた。特に、「ロイロノート」の「提出箱」を活用することで、友だちの考えをじっくりと読み、自分にはなかった視点に気づき、考えを付け加えたり修正したりする児童が増えた。発言に苦手意識のある児童も、ICT を通して自分の思いを表現することができ、全員が学習に参加しているという実感を得ることができた。
- ・「どんな6年生になりたいか」という自分事の問題を設定したことで、児童は主体的に学習に向き合い、自分なりのリーダー像を具体化しようとする姿が見られた。表現方法を自己選択できるようにしたことも、学習への意欲を高める一因となった。
- ・日常的に取り組んできた新聞スクラップ活動では、当初は表面的な感想中心であった記述が、次第に記事の内容を根拠にした自分の考えへと変容していった。継続的な取組により、情報を読み取り、根拠を基に考える力が育ちつつあることがうかがえた。この姿は、他教科の学習場面にも広がりを見せている。

## (6) 1年間取り組んだ成果と課題

### 【成果】

- ・ICT は、4月から段階を踏んで活用してきた。今回の授業では、「ロイロノート」の「提出箱」や「ウェビングマップ」(思考ツール)を取り入れた。児童一人一人の考えを可視化し、比較・関連付けながら思考を深める姿が見られた。また、発言が苦手な児童も安心して自分の考えを表現でき、多くの子どもたちが主体的に学習に参加する姿につながってきた。
- ・表現方法を自分で選択できるようにしたことで、児童が自分に合った方法で考えをまとめ、伝えようとする姿が見られた。
- ・「提出箱」を通して友だちの考えをじっくり見る時間を設定したことで、他者の意見を参考にしながら自分の考えを見直す姿が見られた。その中でも、「自分にはなかった視点」に気づき、考えを付け加えたり深めたりする児童も見られた。
- ・思考ツールに書き込みながら考える活動を中心に構成したことで、発言に苦手意識のある児童も学びに取り残されることなく参加できた。一人ひとりが自分の考えをもち、「できた」「わかった」を実感できる場面が多く見られ、学びに向かう姿勢が前向きになったように感じた。

### 【課題】

- ・ICT 操作に意識が向き、「何を考えるのか」「何を伝えたいのか」が曖昧になる児童も見られた。ICT をツールとして使う目的を、活動の途中でも場面に応じて確認する必要があると感じた。
- ・ふり返りの中で、次時の学習や行動につながる具体性については、さらに工夫する必要があるように感じた。ふり返りの項目や共有の仕方を工夫し、「次は何を意識するか」が明確になるまとめの時間としていきたい。
- ・担任の願いとして、読み取った記事から「感じたこと」や「考えたこと」を自分の言葉で伝えるようというゴールがあり、新聞スクラップを実施した。児童は、興味がある記事から「なぜ、その記事を選んだのか」をスクラップする活動から始めた。その実践を継続していくことを通して、記事の背景に着目して読み取るようになっていたり、背景から考えたことを自分の言葉で伝えようとしたりする姿へとつながっていった。